



学校だより 第 5 号

令和 6 年 9 月

上越市立城西中学校

啖（そつ）とは、鳥が卵からかえるとき、殻の中で雛が鳴くこと。啄（たく）とは、親鳥が外から殻をつつくこと。両者相呼応した、逃すべからざる好機をいう。当校では、啖啄の精神から大きな成果が生まれると考え、職員玄関に掲額している。

城西中学校 創立60周年

当校は、昭和40(1965)年度に、三郷中学校、金谷中学校、和田中学校が統合して開校しました。翌41(1966)年度には、城南中学校の一部を統合しました。現在の地(南新町)に新校舎が完成し、全員で学び始めたのは昭和42(1967)年度です。



【金谷中学校】



【三郷中学校】



【和田中学校】

【全校除雪作業 昭和 56 (1981) 年 1 月の豪雪時】



【↑平成 21 (2009) 年までの生徒玄関 前景
右は現在→】



60 周年をどう迎えるかについては、昨年度から、同窓会、後援会、育西会、PTA の各代表の皆様と相談をさせていただき、以下のように決めさせていただきました。

★50周年の時のような大々的な取組(地域への寄付金依頼、記念式典等)は行わず、時勢に即した、生徒、学校職員、PTA や地域の皆様に負担がかからないものにする。

★2学期に行われる生徒会行事に「60周年記念」の冠をつけ、記念の年を祝うための、生徒のアイディアを生かした種目やセレモニー等を行事に加える。

また、同窓会、PTA の皆様からは、毎年度の会計において、周年行事のための積み立てをしていただいております。まことにありがとうございます。生徒の今と未来のために有効に使わせていただきます。使途につきましては、改めてお知らせいたします。

「還暦」を迎える、城西中学校。人生で言えば「第2のスタート」です。

9月26日(木)には、60周年記念体育祭が予定されています(予備日は27日(金)、30日(月)です)。たくさんの皆さんにお越しいただければ幸甚です。

「学び続ける職員集団」を目指して（２）

夏季休業中、学校職員は様々な研修を行います。法で定められている研修、国・県・市などに指定されて行う研修、個々の職員が希望して受講する研修などありますが、ここでは、城西中（学区）の職員が、自主的に取り組んだ研修をご紹介します。

【チーム担任制についての職員研修】

当校では昨年度から「チーム担任制」を採用しており、定期的に職員で意見交換や振り返りを行っています。今回は、生徒の声やアンケート、職員の意見、先日の県外視察の情報などをもとに、上越教育事務所の指導主事からの指導助言を受けながら、全体やグループで話合いました

生徒からは「相談したい先生に相談できる」「悩みや体調不良などがある時に、複数の先生が心配してくれる」といった肯定的な受け止めが多く寄せられていますが、一方では「一人の先生に伝えたことが、他の先生にしっかりと伝わっていなかった」などの指摘もあり、私たちの情報共有の時間をどう確保していくかについての改善策などを話合いました。

今後も、一人一人の生徒にとってよりよい支援体制ができるよう、全職員で努めてまいります。



【城西中学校区 小中連携で学力向上を考える】

高田西小、三郷小、大和小、和田小、南本町小、黒田小の教員に城西中に来ていただき、学力についての会議を行いました。コロナ禍以降、校区内小学校との対面による連携がなかなかできませんでしたが、学力に関する話し合いを今回、数年ぶりに開催することができました。

①各校の学力の現状を共有すること ②授業や学習活動に対する児童生徒の姿や各学校の取組について共通理解を図ること の２点について、情報交換を行いました。

今、私たちには、児童生徒に「主体的で対話的な深い学び」と「多様な学びの場と方法」を提供することが求められています。それらをどう実現していくかについて、小学校と連携しながら取組を進めてまいります。

【地域に支えられての取組を発表】

城西中学校は、昨年度から、新潟県の『校内教育支援センターモデル校』に指定されています。8月に上越教育事務所で開催された「生徒指導に係る教員研修会（各校の教育相談担当が集まる研修会）」で、これまでの実践を発表してまいりました。「すべての生徒に安心して学校生活を送ってもらうために」をテーマに、地域の方や地元大学院生からのご支援による生徒への個別支援の充実や、チーム担任制などを紹介しました。発表にあたり、改めて、私たちの教育や生徒を支えてくださっている地域の皆様への感謝を強く感じました。この発表が、上越地区内の多くの生徒の幸せにつながっていくことを願っております。

1 学校の紹介、生徒の状況

- ・令和4年度 「にじいろ教室」を2部屋設置
- ・令和5年度 「不登校対策プロジェクト」
県外視察により、「にじいろ教室」の運営方針を決定
「チーム担任制」を運用開始
- ・令和6年度 「校内教育支援センターモデル校事業」
現在、県外視察を踏まえて
「チーム担任制」を改良中

発表資料の一部です

『夏休み にじいろデー』～地域の皆様と～

「花で子どもたちを元気にしたい」という願いから、地域ボランティアの稲葉里美さんに、校内教育支援センター「にじいろ教室」で、定期的に「フラワーアレンジメント」をして開催してもらっています。今年で3年目となります。

今年度の新しい取組として、さんの呼び掛けにより、たくさんの地域の方からご提供いただいた草花を使って活動しています。色とりどりの花に触れることで、子どもも大人も癒しの時間となっています。

ふだんは「にじいろ教室」を利用している生徒と地域のボランティアで、月1回程度活動していますが、夏休み中の8月27日(火)に、日頃お花を提供してくださっている方々との交流会を開きました。

今回のプログラムは ①ジャグリング体験

②フラワーアレンジメント です。

活動をしなが、地域の方々と交流を図ることができ、楽しいひとときを過ごすことができました。

参加してくださった皆様、ありがとうございました。



ジャグリング体験



フラワーアレンジメント



今回参加してくださった地域の皆様です。



当校ALTも参加してくれました。



10月の予定

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 2日(水) スクールカウンセラー来校日 | 15日(火) 音楽祭 学級練習開始 |
| 3日(木) 新人各種大会 | 16日(水) スクールカウンセラー来校日 |
| 4日(金) 英語検定② | 18日(金) 漢字検定 歯科検診(3年生) |
| 5日(土)～11日(金) 体育館照明工事 | 23日(水) スクールカウンセラー来校日 |
| ※この期間は体育館使用ができません。 | 24日(木) 「被爆ピアノ」コンサート(5限) |
| 8日(火) 3年生 上進連テスト② | 28日(月) 積み重ねテスト(英語) |
| 10日(木) 地区駅伝大会 歯科検診(1-3、4、5組) | 29日(火) 積み重ねテスト(社会・理科) |
| 11日(金) 生徒朝会、歯科検診(2年生及び1-1、2組) | 30日(水) 積み重ねテスト(国語・数学) |
| 防災キャンプ(避難所体験)～12日(土) | 31日(木) 60周年記念音楽祭(上越文化会館) |

「教員がいない」問題」に思う

校長 五十嵐 守男

今年の11月に「新潟県公立学校 教員採用選考検査」の「秋選考」が行われることになりました。小学校と特別支援学校の教員、そして中学校・高等学校の国語・英語教員が足りなくなってしまうことを受けての「追加募集」です。かなりの衝撃をもって、受け止めています。

今、様々な業界で起こっている「人手不足問題」。そして、これも全国に広がっている「教員がいない」という問題の大きな波が、今、私たちにも襲いかかってきています。報道や SNS などにより、その職務の過酷さや長時間労働などのイメージが流布されていることも一つの要因かと思っています。「公教育」崩壊の危機、とも言われています。国からも「教師を取り巻く環境整備」について、緊急の提言や指示が次々と出されている状況です。

<学校・教師が担う業務に係る3分類>

(2019年、中央教育審議会)

【1 学校以外が担うべき業務】

- ①登下校に関する対応 ②放課後から夜間の見回り、児童生徒が補導された時の対応 ③学校徴収金の徴収・管理 ④地域ボランティアとの連絡調整

【2 学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要がない業務】

- ⑤調査・統計等への回答 ⑥休み時間における対応 ⑦校内清掃 ⑧部活動

【3 教師の業務だが、負担軽減が可能な業務】

- ⑨給食時の対応 ⑩授業の準備 ⑪学習評価・成績処理 ⑫進路指導 ⑬支援が必要な児童生徒・家庭への対応

当校でも、皆様のご理解をいただきながら業務改善や長時間労働の削減に取り組んでいますが、率直に申し上げて「過労死ライン」を超えての勤務となってしまう職員がいるのが現状で、校長として責任を痛感しています。今後も、地域の皆様や行政からの支援もいただきながら、職員が心身のゆとりをもって職務に当たれるよう、業務改善を進めてまいります。そのことが、一人一人の生徒への適切な指導や支援にもつながると考えます。どうか、ご協力をお願いいたします。

また、一方では、業務の削減や精選、処遇の改善だけでは、教員を目指す人は増えていかないのではないか、とも感じています。

毎年、当校の卒業生も含め、多くの素晴らしい若者たちが教育実習に来てくれています。生徒への支援ボランティアで来てくれている大学院生さんや、公認心理師や養護教諭を目指して実習に取り組んでいる学生さん、院生さんもいます。私たち教員は、この、教育を志してくれる若者たちに、そして、これからの社会の担い手、創り手となる生徒たちに、どんな姿を見せることができるのでしょうか。このことも、とても大切なのではないかと、思うのです。

私たち教員の多くは「憧れ」を抱いて教育の道を志しました。支えてくれた先生、助けてくれた先生、大切なことを教えてくれた先生などへの「憧れ」。それらが、私たちの多くを教職に導いてくれました。そんな「憧れの連鎖」とでもいうべきものが断ち切られた時、学校教育は本当の危機を迎えるのではないかと、そう感じています。

「教育とは 何を教えるかではない どんな人間として 彼らの前に立つかである」

私が、教育者として、人として尊敬する水野文俊さん(故人 元中学校長)の言葉です。

教育という営みに携われることの喜び、誇り、そして責任。それらを、私たちが確かめ合いながら、日々、教育に取り組んでいくこと。そして、自らの姿で、自らの言葉で、教育という営みの素晴らしさ、大切さ、美しさ、尊さを発信していくこと。このことも「教員がいない」問題を解決していく上での大切なポイントなのではないかと、自戒をこめて強く思う、今日この頃です。